

〈はじめに〉

「生活」とは何か？ と、もし問われたら、どのような答えが返ってくるでしょうか。

“毎日くりかえされるもの”、“生きていくための活動”、“衣食住”…などの答えが、きっと多いのではないかと思います。また、ときには、“家族や友人と作る時間”、“喜怒哀楽の場”、というような答えも返ってくるかもしれません。そして、そのような考えやイメージのそれぞれが、生活という場で、私たちが学ぶものの本質に、密接に結びついているように思います。◆まず、“毎日くり返されるもの”。この定義からは、習慣から形成される常識や、事物の典型性(「プロトタイプ」)の学びが示唆されます。それから、“生きて行くための活動”。この定義からは、必要性と問題解決の学びが示唆されます。さらに、“衣・食・住”、は、必要的知識の中でも最重要項目の明示と考えることができるでしょう。また、“家族と友人と作る時間”、には、自己実現と他者との共存の学び、そして、“喜怒哀楽の場”には、自己表現の学び、が、それぞれ、結びつくように思います。◆ことばであっても、また数や計算のような認識であっても、その基本となる部分は、本来、教えられて学ぶものではなく、生活の中で、気づかぬうちに、けれど、とても巧妙に、組み立てられて行くものです。日々の学びを支えているもののひとつは、生きて行く現実から訴求される「必要性」に他なりません。しかし、人間はさらに、その「必要性」を越えて行くものを本質的に持ち合わせている生き物です。学びに対する、人間の持つ志向＝知的好奇心は、義務や強制としてではなく、自ら創造する知識を、私たちにもたらしめます。◆生活の中で直面する出来事を解決しながら、私たちは、その中に楽しみを見つけ、ときには、それを、より高い娯楽や技能、すなわち“文化”へと昇華させて行きます。今回は、「片づけ」、「採集」「飼育」、そしてさまざまな学習要素を内包する「観光」、をテーマとして、私たちが長い時間の中で培ってきた、それらの活動の持つ意味と意義を、考えて行きたいと思います。